

Countif について

- countif で不等号とセル参照を組み合わせるときには、& を使う。
 - (例) D1 から D50 の列で、D55 にある数値以上の個数を調べる場合、=countif(D1:D50, ">"&D55) となる。

後の後半がマッチしているものを選ぶ方法 (接尾辞の検索)

- =IF(COUNTIF(対象の語, "* 接辞 "),1,0)
 - (例) B 列に語が並んでおり、接尾辞の ive を持つ語を探す = その語の横 (A 列) に 1 が入る。
 - =IF(COUNTIF(B1, "*ive"),1,0)

一捨二入で計算する

- 通常、四捨五入では、round 関数を使う (=round(数値、桁数))
- 数値が 7.1 の時は 7、7.2 のときは 8 にしたい
- =round(数値 - 0.15,0)
 - - 0.15 にしているのは、7.19 は 7 に、7.20 は 8 にするため

一番右の語を除いて抽出 (複数形の s を削除し、語幹だけにする)

- =LEFT(A1,LEN(A1)-1)

IF 関数の注意

- IF 関数ではネスト (場合わけ) は、7 条件 (8 つに分ける) まで
- 8 条件以上は、vlookup を用いて別にデータベースを作っておく